

平成29年度 「いしかわ道徳教育推進事業」 推進校
人と地域を生かした道徳教育講座

道徳 授業の基本スタイル

主体的・対話的な学びを通して
教師

児童

問題意識をもつ

- ・前はどうしていたかな？
- ・なぜこんなことを言ったか？
- ・主人公はこの時どんな気持ちだったのかな。

教材をもとに話し合う

考えをもつ

- ・主人公はこの時、こんな気持ちだったと思うよ。
- ・わたしだったら、こうだと思うな。
- ・ぼくなら、こんな事はできないな。
- ・前に自分もこんな事があった時、こうだったから、主人公もそうだと思う。

考えを深める

- ・似ているところがあるな。
- ・どうして違うのかな。
- ・なぜこんな考えになったのだろう。
- ・〇〇の立場から考えると、どうなのかな。
- ・本当にそうなのかな。
- ・もっといい考えはないのかな。

自分自身を見つめる

- ・自分はいつも、こんな考え方をしていたけど、こんな考え方もあるんだな。
- ・こんな考え方ができるようになりたいな。

思いをあたためる

- ・〇〇さんのメッセージが心に響いたよ。
- ・心が温かくなったよ。

導入

重点1

児童が主体的な学びをするための工夫

- ・各教科、特活、生活体験とつなげる
- ・問題意識をもたせる資料や教材の提示の工夫
- ・児童が興味をもつような導入の工夫

展開

人間理解

他者理解

- ・考えを持たせる手立ての工夫
書く活動(ワークシート、付箋)
心情円盤、役割演技、動作化
ペア・グループ活動
意思表示(ネームプレート)

個人思考

グループ思考

全体思考

- ・体験を生かした話し合い
- ・理由を述べて聴き合う話し合い

重点2

児童の考えを深めるための手立て

価値理解

- ・発問の工夫
(中心発問、深めの発問)
- ・問い返し
- ・構造的な板書
- ・表現活動の工夫
役割演技、動作化
- ・学習形態の工夫
ペア・グループ活動
- ・書く活動の工夫
ワークシート(付箋、吹き出し)

自己理解

- ・各教科、特活、生活体験とつなげる
- ・導入の問題意識とつなげる

終末

家庭・地域、道徳的実践力に活かす

考え、話し合う道徳

- ・教師自身の体験談
- ・GTや先輩からのメッセージ
- ・保護者からのメッセージ
- ・思いをまとめる(ワークシート、私たちの道徳、ふるさとがはぐくむどうとくいしかわ)
- ・新たな課題を見出す
⇒次の道徳学習へつなげる

重点1：児童が主体的な学びをするための工夫

① 導入や終末の工夫

5年：正義の実現「七稲地蔵」

お地蔵様の映像を見て、どんなことに気がついた？

教材からの導入の例

3年：思いやり・親切「メニューにない料理」

思いやりのある行動ってどんな行動だと思う？

価値からの導入の例

教材や価値からの導入で
興味や問題意識をもつ。

2年：善悪の判断と勇気「だれのさくひんかな？」

ももちちゃんとまいちゃんの
絵はよくにているんだ。

紙芝居や挿絵を手がかりに教材の内容をとらえる。

2年：生命尊重「ハムスターの赤ちゃん」

すべての命は命がけで
生まれてきます。

(終末) ゲストティーチャーのお話を聞き、
道徳的価値について思いを温める。

②ねらいの明確化

学習指導要領解説を
読みこむ

児童の実態を
把握する

教材を
吟味する

授業のねらいを明確にする

③振り返る活動

(人を) 助けるには勇気が
必要だとわかりました。

友だちのよさを見つけて
いけるようになりたいな

道徳ファイルに学びを蓄積

書くことで自分をみつめる。

重点2：児童の考えを深めるための手立て

①考えたくなる発問の精選

4年：友情・信頼「台風の日」

とも子さんは、
どうしてはっ
したのかな？



価値に対する曖昧な考えを
はっきりさせる。

②表現活動の工夫

かがやき：友情「くまさんのなみだ」

くまさん、
大丈夫？



役割演技や動作化等を工夫し、登場人物の
心情を考えたり自分の思いを表現したりする。

③書く活動の工夫



書くことで自分自身や教材の登場
人物等と対話したり、書いたもの
を基にして友だちと対話したりす
ることで多面的・多角的な考えに
出会う。

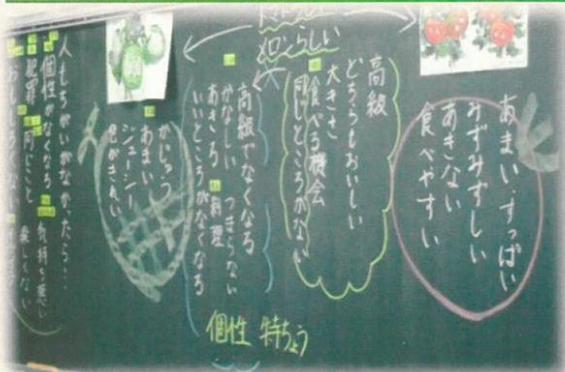
④学習形態の工夫



目的に応じて、ペア・
グループ交流で考える。
伝える・伝え合うよさを
味わう。

⑤構造的な板書

5年：個性の伸長「トマトとメロン」



2年：生命尊重「ハムスターの赤ちゃん」



道徳的な問題を焦点化する。思考を整理する。

【成果】

(1) 研究の重点を大切にしたい授業づくり

児童が主体的な学びをするために

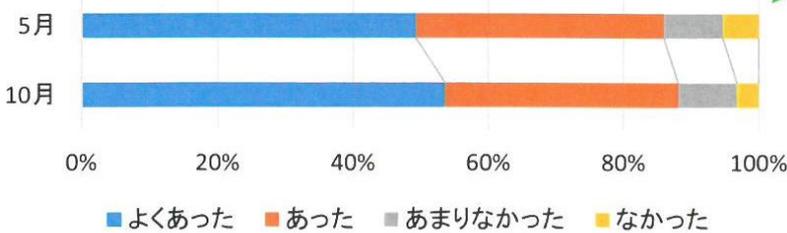
挿絵、紙芝居、心情円盤、ゲストティーチャーの活用などを取り入れることで、児童が教材の内容や道徳の問題を十分に捉え、問題意識をもって考えたり、自分とのかかわりで考えたり、自分の本音を語ったり、道徳的価値について考えを深めたりできるようになってきた。

児童の考えを深めるために

教材の中にどんな道徳的価値が、どのように内在されているかを分析し、教師自身が授業のねらいを明確にしてきた。ねらいに迫る中心発問や深めの発問の吟味並びに構造的な板書の計画を行うことで、授業の前後で児童の考えの変容や新たな気づきが見られてきた。

(2) 道徳に関する児童アンケート

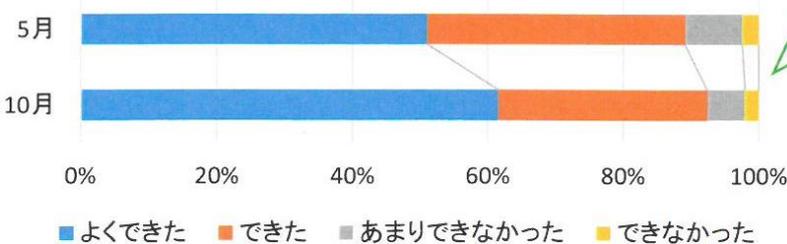
道徳の勉強をする前と後で、考えが変わったり、新しくわかったことはありましたか。



よくあった 5月 49%
⇒10月 54%

授業設計や発問の吟味によって、一人一人が深く考えるようになっている。道徳的価値について教材を通して、自分の事として考え、自己の変容や道徳的価値の新たな発見につながった。

難しいことでもあきらめずに挑戦できていますか。



よくできた 5月 51%
⇒10月 62%

教師が「よりよい生き方をめざす」ことを重点目標として意識して授業や教育活動全般において指導してきた。それが児童の「あきらめず挑戦する」意識の高まりにつながったと考える。

【今後に向けて】

(1) 道徳の授業

道徳的価値を深める授業の実践

教師は授業のねらいに迫るため、児童に考えさせたいことを明確にもつようにする。事前研究会や授業整理会ではねらいの達成に向けて、協議のポイントを絞った授業研究を行っていく。教材に合った学習展開や中心発問、補助発問、教材の提示の工夫、板書の工夫等を学校として蓄積していく。

また、学級経営の充実を図り、児童の共感的人間関係を築き、安心して話し合える学級経営に努める。

評価

授業のふり返りを評価の材料として取りためておき、一人一人の成長や変容を見取ることができるようにしていく。また、ふり返し以外の方法についても研究し、多様に見取ることができるようにしていく。

(2) 全ての教育活動における道徳教育

「思いやりの心をもち、よりよい生き方をめざす児童」を育てるために、本校児童の実態に合わせて別業の見直し・活用を図る。全教育活動において道徳教育を行う意識をもち、児童の道徳的価値の自覚を深めていくようにする。